

トーキング ロード  
嘶家人生 山あり、谷あり

〔 第6回 〕

## 試し酒

✦ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya ✦

暑い季節になると、ビールがより一層美味しく感じます。僕は最初の一杯のキンキンに冷えたビールが喉を通過する時が一番好きで2杯目からは違うお酒にするのですが、中にはビール党といって終始ビールしか飲まない方もいます。

僕の後輩にも古今亭始というビール党の者がおりました、彼と飲みに行くとは大変なんです！

先輩というのは後輩からこれ注文して良いですか？と言われたらダメって断れないじゃないですか！

それを逆手にとり、始「木りん兄さんビール注文していいですか？」と最初のうちは聞いてきます。

僕も「飲みな飲みな！」と答えます。これを、何回も繰り返しているうちに酔っていきますから、しまいは勝手に注文していきます(笑)。

まあ、それは構わないんですがビールを飲む飲む。

よくこんなに飲めるなって程に。そろそろ飲めないかなと思うと、途中で御手洗いに行き、戻って来るとまた回復して飲み始める。

3時間も飲み、そろそろ帰ろうとお会計をしにレジに。いったいあいつは何杯飲んだのか戦々恐々として

いると、店員さんがレジで「生ビ

ル53」。

僕は「53杯？間違いないやありませんか？」と思わず聞いてしまいました。ここまでくるともう逆に気持ち良いです。

でも次、始くんと飲む時は誰か先輩がいる時にしようとセコイことを考える僕でした。

落語にもこの様な酒好きは出てきまして：

大酒飲みである旦那が、飲み仲間である酒屋の主人を訪ねるところから話は始まります。

旦那が、お供に連れてきた使用人の久蔵を「我々以上の大酒飲みで5升呑んでも酔わない酒豪」であると

自慢。それを聞かされ半信半疑の酒屋の主人は余興を兼ねて、本当に5升の酒が呑めるのか久蔵に賭けを持ちかけます。

久蔵は「少し考えさせてください」と表に出て、しばらくして戻ってくると「その賭けお受けします」と5

升の酒を飲み始め……  
とうとうその5升という酒を飲み干してしまいます。

驚いた酒屋の主人は久蔵に「いやーすごい。これは参った。なんでそんなに酒が呑めるんだ？さつき表に

行った時なにかおまじないでもしてきたのかい？」と尋ねる。  
果たしてその久蔵の答えとは？  
気になる方は「試し酒」をお聴きください。



## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

身長192cmと、落語協会一の高身長！

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中

## 独演会のお知らせ

日時：8月31日(土)

14時開演(13時半開場)

会場：聖徳記念絵画館(明治神宮外苑)

チケット：前売り 2,800円

当日 3,000円

ご予約お問い合わせ：オールドキッズ

電話：045-309-1007

(受付時間 平日11時～18時)

メール：kirin.kirin.kirin24@gmail.com